貫井の風

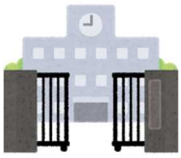
令和　元年度　９月号
ＮＯ．５
練馬区立貫井中学校　学校だより

井戸を掘った医者～中村　哲～

校長　桐野　和之

皆さんは風邪を引いたり、ケガをしたりしたときは病院に行って、お医者さんに治療していただきますね。しかし、今号で取り上げる中村　哲先生はお医者さんなのに井戸を掘る仕事をしました。その中村　哲先生の仕事や思いについて記します。

中村先生は、パキスタンのペシャワールという所で、病気で困っているアフガニスタン難民のために、献身的に尽くしているお医者さんの一人です。病気を治すために、中村先生はまず、井戸掘りから始めました。それは、ここの人たちがなぜ病気になるのか、なぜこのように汚れているところで生活をしなければならないのかと考えたからだそうです。そして、綺麗な水を飲めるようにすること、きれいな水が使え、清潔に生活できるようにすることが大事だと気が付いたそうです。皆さんは、水道の蛇口をひねればいつでも水が出てきて、きれいでおいしい水が飲めます。きれいな水で洗濯をし、お風呂に入り、清潔な生活をしています。水に困ることはまず考えられません。日本では、きれいな水と清潔な生活は当たり前になっています。でも、中村先生の治療しているペシャワールでは、清潔な水はありませんでした。清潔でないために、汚れた水を飲んで、赤痢にかかって多くの人が死んでしまうのだそうです。そこで、中村先生は、井戸を掘って、きれいな水が飲め、きれいな水で洗濯ができ、きれいな水でシャワーを浴びられるようにしようと考えたのです。ペシャワールには、機械もなければ電気もありません。現地の人と協力して、スコップやクワを使って手で掘りました。８０メートルも深く掘ったこともあるそうです。



中村先生たちは、患者の治療を行いながら、土地の人々と協力して、何と、１０００本もの井戸を掘ったそうです。それで清潔な飲み水を手に入れることができました。それから、水を用水路に流すことによっていろいろな作物を育てることができるようになり、農業によって、生活も少し楽になってきたそうです。中村先生は、医者として、病気の治療もすることも大切ですが、そこに住んでいる人たちの生活が良くなるようにすることが大事だとおっしゃっています。だから、治療の仕事は普通にしながら、井戸を掘って生活に必要な水を手に入れたり、農業ができるようにしたり、緑の大地を増やそうと努力しているのだそうです。

中村先生は、現地の人々の生活が良くなり、病気になる人が少なくなるように考え、行動し、さらにお医者さんとして病気に苦しんでいる人たちの治療に力を尽くしているのです。このような中村先生の献身的な活動に対して、２００３年に、平和と国際理解の部で、アジアのノーベル賞といわれるマグサイサイ賞を受賞されました。

皆さんも、世界の国々の人々、特に子どもたちの平和や生活に関心をもって、中村先生のような心をもち、自分にできることは何かを考え、今できることから行動を起こしてほしいと思います。私は街頭募金やユニセフ募金をしたり、地球に優しい生活を心がけ、冷房や暖房の節約をしています。皆さんには何ができるでしょうか。中村先生の考えと行動から学びとってほしいと思います。

下田臨海学校を終えて

第１学年教諭　八田　大空

今年も、静岡県下田市にて臨海学校を実施してきました。例年のことですが、下田臨海学校に出発する前から学校のプールで入念に練習を行いました。今年は、昨年に比べると涼しい気温の中、水泳練習が実施されました。毎年、練習時に日焼けをする時間を確保しているのですが、今年に関してはなかなか陽が出ず、十分に日焼けをできないことが懸念されました。しかし、きびきびした行動、元気な声で、臨海学校に向けての練習に取り組み、７月３０日に出発しました。

今回の参加者は、男子６１名、女子６０名の計１２１名でした。例年に比べると、比較的過ごしやすい気候でした。宿舎から実習を行う外浦海岸までは、険しい山道を歩き、生徒からは「かなり大変だ。」といった声も多く聞こえました。３日間で計５往復しましたが、徐々に慣れていく姿を見てたくましく感じました。学校での本番の海を想定して行った練習、１日目・２日目の海での練習の成果もあり、３日目の大遠泳・中遠泳・小遠泳に挑戦した生徒はしっかりと完泳し、達成感を味わうことができました。

今年の臨海学校のスローガンは「海に親しみ、仲間と協力して絆を深めよう。」でした。学校での水泳練習、各係での準備活動から当日まで臨海学校を成功に導こうとお互いに協力し、無事に終えることができました。臨海学校は、多数の方からのサポートがあり、行えるものです。下田臨海学校を無事終えたことを自信にもちながらも、OSSの先生・先生・仲間・お家の方、その他にもたくさんの方々にサポートしていただいたことを決して忘れず、今回学んだことを２学期の学校生活で発揮してもらいたいと思います。

関東大会・全国大会に出場して

３年Ｄ組　陸上部　安納隆一郎

関東大会で初めて泊まり込みの大会を経験しました。知らない選手たちと宿泊を共にしたり、こんなに大きな大会に出場したりするのは初めてだったので、どのように気持ちを作れば良いのか分からなくなってしまいました。そして、８月９日に関東大会に臨みました。いつもの自分の力が全く出せず、陸上競技で初めて悔し涙を流しました。

そして、その経験を活かしていろいろ策を立て、準備をして全国大会に臨みました。以前に世界陸上が開催された大きな競技場でした。タータンの硬さだったり、試技順の待ち時間だったり、また関東大会とは違う課題、違う状況に対応するのにかなり苦労しました。まだまだ自分は弱いと感じました。

しかし、この夏に大きな経験をたくさん積むことができてともて良かったです。また、この経験は自分の力だけでなく、周りの方々の支えがあってできた経験です。その方々に感謝をして、今後さらに強い選手になりたいと思います。

２年Ｄ組　水泳　横田篤郎

僕は関東大会を終えてたくさんの経験をすることができました。今までの大会では東京都のみの大会がほとんどで、他の県の選手と戦うことはあまりありませんでした。また、競技場もいつもとはかなり違うため、初めての経験が多かったです。

大会ではエントリータイムは２００メートが良い順位ではなく結果もそこから落としてしまいました。１００メートルのエントリータイムは決勝ラインぎりぎりの順位でした。しかし、タイムを１秒近く落とし、順位も下がってしまいました。最近は少しずつ都大会の決勝には残ることができていたので、今回も決勝に残れるだろうという甘い考えがあったと思います。今回は関東大会にただ出場しただけで終わってしまいました。この大会の負けを心に刻んで来年は全国大会に出場し、決勝に残り、良い結果を残せるようにしたいです。

練馬区立中学校生徒海外派遣に参加して

「伝え合うということ」

３年Ａ組　二木　日海留

７月２１日から８日間、私は練馬区海外派遣生としてオーストラリアへ行き、ホームステイ、現地中学校での学校生活という、貴重な体験をすることができました。

私がこの海外派遣を希望したのは、言語の違う相手とどのようにコミュニケーションをとるかを学びたいと思ったからです。コミュニケーションをとる方法の一つにジェスチャー、動作があります。私は体全体で表現することが得意なので、動作で会話ができると思っていました。

ところが、予想に反して、私は当初の２日間、ジェスチャーどころか、手足がまったく動きませんでした。今、振り返ってみると３つの理由が考えられます。

一つ目は、英語の聞き取りができなかったこと。

二つ目は、言葉が通じない人たちの中での生活というプレッシャー。聞き取ろうとしても、自分の思いを伝えようとしても、簡単には会話ができない、ということは、私にとって大きな発見となりました。

三つ目は、場の空気ということです。実は、私の聞き取る力はすぐに身に付きました。常に頭を回転させていたからです。赤ちゃんが自然に言葉を覚えるのと同じように、今の私の年齢でも可能なのだと分かりました。

３日目のこと、母のミスについてバディと何かを話していた時、違和感のある空気を感じました。彼女たちの会話をすべて聞き取ることはできませんでしたが、会話の空気を私は本能的にキャッチし、私の頭は回転して、その内容を理解することができました。場の空気という表現方法は日本人特有のものだと思っていましたが、場の空気もまた、コミュニケーションにとって重要な役割をしているということに気づきました。

コミュニケーション、それは相手と自分が互いに伝え合う、ということです。それを体験できたことは、海外派遣生としての大きな成果だと思っています。このような機会を与えていただいたこと、深く感謝しています。

「海外派遣で学んだこと」

２年Ｄ組　八幡　直生

僕が海外派遣で学んだことは、コミュニケーションの大切さです。初めてホストファミ

リーやバディ、学校の先生や学校の友達などに会った時は、恥ずかしさなどでうまく話せないこともありました。自分が相手に伝えたくても、うまく伝わらないこともありました。しかし、コミュニケーションをとる中でだんだん慣れていき、相手が自分に伝えたいことも分かるようになっていきました。

今回、コミュニケーションへの自分の課題は、「自信をもって話す」ということです。2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会も近づいてきました。会場には世界中の国々から多くの人々が日本にやってきます。その時には、自分の課題である「自信」を克服し、コミュニケーションをとれるようにしたいです。そしてオーストラリアでの経験を活かしたいです。

オーストラリアでは、日本との違いなども見付けることができました。文化、歴史、食事、学校の様子、ふだんの生活、様々な場面での違いです。オーストラリアの学校の授業の教科の中に「日本語」の授業がありとても驚きました。それを見て、日本の学校の英語の授業も大事にして、意欲的に受けようと思いました。

この海外派遣で様々なことを学びました。現地の人と交流することはとても楽しかったし、良い経験になりました。この素晴らしい経験を、学校生活やこれからの人生に活かしていこうと深く心に刻みました。

部活動等の報告

卓　球　部…◇第72回東京都中学校卓球選手権大会　　７月２５日（木）

結果：男子団体　初戦惜敗　貫井中1―３三鷹二中

関口恭央･齋藤勇翔･松原大芽･山根侑大･前山颯汰･橋本伊央里･山縣碧・江藤陸

◇第14回ニッタク深川カップ　　８月２５日(日)

結果：男子団体　Ｂクラス１位　３１勝４敗

関口恭央･松原大芽･山根侑大･橋本伊央里･山縣碧･黒木咲玖･井上颯太

◇第４回朝霞市ｼﾞｭﾆｱｵｰﾌﾟﾝ卓球大会　　８月２８日（水）

結果：男子個人シングルス　松原　大芽：準優勝　　山根　侑大：第５位

２年予選１位通過（松原大芽･山根侑大･関口恭央･山縣碧）

１年予選１位通過（石田吏音･谷川和希）

男子柔道部…◇第38回東京都中学校体重別選手権大会、第68回東京都中学校対抗柔道大会

７月２６日（金）個人戦、７月２７日（土）団体戦

結果：男子個人戦　男子50㎏級　川中大輝：第５位　　男子60㎏級　中村漣音：第５位

男子団体戦　第５位

女子柔道部…◇第30回東京都中学校大樹別女子柔道選手権大会

第23回東京都中学校対抗女子柔道大会

７月２６日（金）個人戦、７月２７日（土）団体戦

結果：女子個人戦　女子40㎏級　木下音々：第５位

女子44㎏級　佐久間吉花、鎌田緋奈：第５位

女子52㎏級　関口莉子：第５位　　女子63㎏級　村井暁音：第３位

女子70㎏級　中村　添：第３位

女子団体戦　第５位

吹奏楽部　…◇第59回東京都中学校吹奏楽コンクール　　８月８日（木）

結果：Ｂ組　銀賞　「バビロン川のほとりで」　２８名

ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ部…◇練馬区民体育大会バドミントン競技会　　８月１９日（月）、２２日（木）

結果：＜男子シングルス＞　佐藤拓也、栗原弦汰：３回戦敗退　　玄間瑛昇：１回戦敗退

＜女子シングルス＞　立道季子、本谷実智：３回戦敗退　　相良心咲：２回戦敗退

勝元涼葉：１回戦敗退

＜男子ダブルス＞　鈴木･髙橋組、工藤･吉國組、岩崎･横田組：１回戦敗退

＜女子ダブルス＞　内間･朴木組：ベスト８　　三橋･中村組：ベスト16

高橋･三木田組、唐橋･北見組：２回戦敗退

野　球　部…◇練馬区中学校（野球）秋季大会　　９月１日（日）

結果：貫井･閑二合同チーム２－５旭丘中